

ルネ・ラリック没後80年
箱根ラリック美術館開館20周年

フェイラー(FEILER)との初コラボが決定！

オリジナルハンカチ「ミュゼラリック」発売決定のご案内

2025年7月8日(火)より販売開始

平素よりお世話になっております。

今年2025年、ルネ・ラリック没後80年および開館20周年を迎える箱根ラリック美術館は、ドイツ伝統工芸織物シュニール織のブランド「フェイラー(FEILER)」と初のコラボを実施し、ラリック作品をモチーフにしたオリジナルハンカチ「ミュゼラリック」を2025年7月8日(火)より箱根ラリック美術館ミュージアムショップにて発売することが決定しました。本件、ぜひご紹介くださいますようお願いいたします。

幅広い世代から絶大な支持をあつめる「フェイラー」と初コラボが決定。
ラリックの代表的な作品の数々が、美しく高品質なハンカチに。

触れるだけで気持ちが和らぐ柔らかな質感、使うほどに肌になじみ長持ちする風合い、そして、美しい発色とひと柄ひと柄に薫り高い文化やストーリーを織り込んだ表裏一体のデザインの奥深さで知られる、フェイラーのシュニール織。今回のコラボによるオリジナルハンカチは、邸宅をイメージしたデザインの中央上部に、西洋で幸運のモチーフとして親しまれ、かつラリックが好んだスズランとツバメが、そして、その周りを囲うように、香水瓶「シダ」(1912年)、ブローチ「蝶の妖精」(1897-1899年頃)、香水瓶「ダン・ラ・ニューイ」ウォルト社(1924年)といった、ルネ・ラリックの代表的な5作品を配することによって、「箱根ラリック美術館」が表現されており、箱根ラリック美術館を訪れてくださった皆様へ「幸運が訪れますように」という想いが込められたデザインとなっております。ハンカチの縁どりのカラーはピンクとブルーとミントグリーンの3色展開。貴重なオリジナルハンカチを、ぜひお買い求めください。

商品名：オリジナルハンカチ「ミュゼラリック」

サイズ：縦25×横25(cm)

販売開始日：2025年7月8日(火)

販売価格：税込3,300円(税抜3,000円)

販売場所：箱根ラリック美術館ミュージアムショップ(神奈川県足柄下郡箱根町仙石原186番1)

(※箱根ラリック美術館以外での販売お取り扱いはまだ未定。今後お取り扱いがある場合は、箱根ラリック美術館公式サイトおよびSNSにてお知らせいたします)

※フェイラー(FEILER)の店頭および公式オンラインショップでの販売はございません。



▲オリジナルハンカチ「ミュゼラリック」
絵柄のモチーフとなっているのは、中央画像左上から時計回りに、作品①チョーカー「オリーブ」(1897-1899年頃)、ツバメとスズランのモチーフ、作品②香水瓶「シダ」(1912年)、作品③ブローチ「蝶の妖精」(1897-1899年頃)、作品④香水瓶「ダン・ラ・ニューイ」ウォルト社(1924年)、作品⑤香水瓶「サン・アデュー」ウォルト社(1929年)



▲モチーフとなったラリック作品。(左)香水瓶「ダン・ラ・ニューイ」ウォルト社(1924年)、(右)ブローチ「蝶の妖精」(1897-1899年頃)

【FEILER(フェイラー)】

フェイラー(ドイツ・ホーエンベルク/1948年創業)は、ドイツ・ババイヤ地方の伝統工芸織物シュニール織に創意工夫を重ね、美しい色柄と優しい質感のハンカチ、インテリアクロス、ポーチやバッグなど、上質な暮らしを彩る商品を幅広く展開するシュニール織を代表するライフスタイルブランドです。フェイラー製品の上質さは、家族の歴史に寄り添い、受け継がれるとともに、大切な方への心を込めた贈り物として、世代を越え、時代を越えて愛され続けています。そして、200種類以上ある色鮮やかなデザインの中からハンカチを選ぶときの気持ち。日常の中で柔らかな肌触りのポーチをふと手にしたときの胸の高鳴り。どこにでも持ち運ぶことができるフェイラーだからこそ、誰もが持っているドキドキする力をいつでも呼び起こすことができる。ブランドメッセージ「心はいつだって踊れる。」には、「感性の駆動」を通して、多くのひとの人生に彩りを届けたいという願いを込めています。

◆フェイラーブランドサイト <https://www.feiler-jp.com/>

ルネ・ラリックの 企画展 **ファッション図鑑** 好評開催中！

アール・ヌーヴォーの服飾がわかる
18のアイテム



120年の時を超えてモードが香る。ルネ・ラリックが手がけた服飾アイテムを一堂に――。

箱根ラリック美術館開館20周年およびルネ・ラリック没後80年を記念した企画展「ルネ・ラリックのファッション図鑑 アール・ヌーヴォーの服飾がわかる18のアイテム」が、好評開催中です(2025年11月30日まで)。

19世紀末から20世紀初頭、ルネ・ラリック(1860-1945)の名は独創的なジュエリー作家としてフランス国外にも知られていました。しかしその作品の幅は実に広く、飾り襟やハンドバッグなどバラエティーに富んだ“服飾品”を数多く残しています。

新たな世紀に先駆けて開催された1900年のパリ万国博覧会で、ラリックはジュエリー部門の総責任者を務めました。ファッション部門でその任を務めたトップデザイナー、ジャンヌ・パキヤン(1869-1936)とは、後年に意外な接点も生まれます。当時パキヤンらがリードした女性のモードは、流行の装飾様式“アール・ヌーヴォー”と調和する曲線的なラインのドレスでした。多くの女性はその流麗なシルエットにふさわしい、くびれたウエスト作りに励みました。健康を害するほど締め付けるコルセットから女性が解放されるのは、第一次世界大戦(1914-1918)を経た1920年代です。一転して装飾の流行が直線的な“アール・デコ”様式に移ったその頃、ラリックはすでにインテリアを中心にしたガラス製品の量産に大きく舵を切っていました。デビュー初期に集中していたオーダーメイドの服飾品は、細いウエストにエレガンスを求めたアール・ヌーヴォーの装いとまさに符合するものです。

開館20周年を迎えた箱根ラリック美術館の企画展では、所蔵するラリックの作品をファッションの視点からピックアップし、図鑑形式でそのアイテムを紹介します。

またルネ・ラリック没後80年を記念し、彼が活躍した20世紀初頭のシルエットのドレスを復元制作しました(※写真右)。展示のハイライトとして、これに作品の着装を初めて試み、ファッションにおけるラリックのリアリティーに迫ります。服装の歴史にまつわるエピソードも交え、アール・ヌーヴォーの服飾がわかる当館厳選の18のアイテムを、図鑑をめくるようにご覧ください。



(写真のドレス着用アイテム)
飾り襟「アザミ」1905-1906年頃
ブローチ「小葉の輪」制作年不詳
ベルトバックル「麦の穂」1900年頃
ハンドバッグ「フジとクワガタソウ」1901-1903年頃

【オリジナル ミネラルウォーター 好評発売中！】

富士山麓の美味しいミネラルウォーターをコロンとした可愛いフォルムのボトルに詰めた美術館オリジナルミネラルウォーター。ルネ・ラリックの代表作(右写真、左から順に)「蝶の妖精」「ダン・ラ・ニューイ」「冬景色」「シルフィード」「ツバメ」「つむじ風」がそれぞれデザインされたレアな逸品です。

美術館オリジナルミネラルウォーター 330ml 各 432円(税込)



ルネ・ラリック没後 80年 箱根ラリック美術館開館 20周年

【ルネ・ラリックのファッション図鑑】

開催期間:開催中～2025年11月30日(日)まで

会場:箱根ラリック美術館 2階企画展示室

主催:箱根ラリック美術館

企画監修:奥野良江 協力:(学)杉野学園ドレスメーカー学院 神戸ファッション美術館 (株)アディスミューズ/アトリエ ohana

箱根ラリック美術館

開館時間:9:00～16:00 (美術館入館は 15:30 まで)

Hakone EMOA Terrace レストラン:9:00～17:00 (お食事 L.O. 16:00/ドリンク L.O. 16:30)

休館日:毎月第3木曜日定休(但し、8月は無休)

※休館日変更、または臨時休館の場合あり。最新情報は、公式ホームページをご覧ください。

入館料:大人 1500円/大・高生・シニア(65歳以上) 1300円/中学生・小学生 800円

※レストラン、パティスリー、ミュージアムショップは入場無料

所在地:〒250-0631 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原 186 番 1 TEL:0460-84-2255

箱根ラリック美術館公式サイト <https://www.lalique-museum.com/>



ルネ・ラリック没後80年
箱根ラリック美術館開館20周年

ルネ・ラリックの
ファッション図鑑

アール・ヌーヴォーの服飾がわかる
18のアイテム

企画展開催のご案内

2025年3月22日(土)～11月30日(日)

120年の時を超えてモードが香る

ルネ・ラリックが手がけた服飾アイテムを一堂に――。

19世紀末から20世紀初頭、ルネ・ラリック(1860-1945)の名は独創的なジュエリー作家としてフランス国外にも知られていました。しかしその作品の幅は実に広く、飾り襟やハンドバッグなどバラエティーに富んだ“服飾品”を数多く残しています。

新たな世紀に先駆けて開催された1900年のパリ万国博覧会で、ラリックはジュエリー部門の総責任者を務めました。ファッション部門でその任を務めたトップデザイナー、ジャンヌ・パキヤン(1869-1936)とは、後年に意外な接点も生まれます。当時パキヤンらがリードした女性のモードは、流行の装飾様式“アール・ヌーヴォー”と調和する曲線的なラインのドレスでした。多くの女性がその流麗なシルエットにふさわしい、くびれたウエスト作りに励みました。健康を害するほど締め付けるコルセットから女性が解放されるのは、第一次世界大戦(1914-1918)を経た1920年代です。一転して装飾の流行が直線的な“アール・デコ”様式に移ったその頃、ラリックはすでにインテリアを中心にしたガラス製品の量産に大きく舵を切っていました。デビュー初期に集中していたオーダーメイドの服飾品は、細いウエストにエレガンスを求めたアール・ヌーヴォーの装いとまさに符合するものです。

開館20周年を迎えた箱根ラリック美術館の企画展では、所蔵するラリックの作品をファッションの視点からピックアップし、図鑑形式でそのアイテムを紹介します。

またルネ・ラリック没後80年を記念し、彼が活躍した20世紀初頭のシルエットのドレスを復元制作しました(※写真右)。展示のハイライトとして、これに作品の着装を初めて試み、ファッションにおけるラリックのリアリティーに迫ります。服装の歴史にまつわるエピソードも交え、アール・ヌーヴォーの服飾がわかる当館厳選の18のアイテムを、図鑑をめくるようにご覧ください。

【ドレス制作者からのコメント】

今回のドレス制作にあたり、参考文献にあるコットンポイル地やレース地等、当時を感じさせる素材は入手困難のため、綺麗なシルエットの復元を重視して、薄地のシルククレープデシンを素材に選びました。

ドレス制作協力 杉野服飾大学 特任講師 相場千枝

本展で展示されたレプリカ衣装2点は、19世紀末に流行した「アール・ヌーヴォー」と呼ばれる様式の影響を受けたもので、細いウエストと「S」の字を描くように流れるシルエットを特徴としています。

着付け協力 杉野服飾大学 服飾文化学科講師 菅野ももこ





▲ブローチ「樹冠の中の女」1900-1902年頃



▲コサージュブローチ「バラ」1902-1904年頃



▲ハンドバッグ「フジとクワガタソウ」
1901-1903年頃



▲ハットピン「ケシ」1898-1899年頃



▲ネックレス「スカラベ」1912年

【オリジナル ミネラルウォーター 好評発売中！】

富士山麓の美味しいミネラルウォーターをコロンとした可愛らしいフォルムのボトルに詰めた美術館オリジナルミネラルウォーター。ルネ・ラリックの代表作「シルフィード」「ダン・ラ・ニューイ」「ツバメ」がそれぞれデザインされたレアな逸品です。

美術館オリジナルミネラルウォーター 330ml 各 432円(税込)



ルネ・ラリック没後 80年 箱根ラリック美術館開館 20周年

【ルネ・ラリックのファッション図鑑】

開催期間:2025年3月22日(土)~11月30日(日)

会場:箱根ラリック美術館 2階企画展示室

主催:箱根ラリック美術館

企画監修:奥野良江 協力:(学)杉野学園ドレスメーカー学院 神戸ファッション美術館 (株)アディスミュージズ/アトリエ ohana

箱根ラリック美術館

開館時間:9:00~16:00 (美術館入館は 15:30 まで)

Hakone Emoa Terrace レストラン:9:00~17:00 (お食事 L.O. 16:00/ドリンク L.O. 16:30)

休館日:毎月第3木曜日定休(但し、8月は無休) ※臨時休館の場合あり、最新情報は、公式ホームページをご覧ください。

入館料:大人 1500円/大・高生・シニア(65歳以上)1300円/中学生・小学生 800円

※レストラン、パティスリー、ミュージアムショップは入場無料

所在地:〒250-0631 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原 186番1 TEL:0460-84-2255

箱根ラリック美術館公式サイト <https://www.lalique-museum.com/>